



『C303 小学校理科研修講座』の概要を紹介します！

福島大学人間発達文化学類 准教授 鳴川哲也 先生



授業のなかで「理科っておもしろいな!」と思う瞬間はどんなときですか??

私が「理科のおもしろさ」を感じるのは、子どもが教師の予想・理解をこえてくるときです。もちろん想定外な反応に悩むこともあります。でも、子どもの考えに向き合い、丁寧に理解しようとする過程に「おもしろさ」「楽しさ」を感じます。

ちょっとした工夫で変わる!
子どもが主体となって学ぶ理科の授業

小学校理科で大事にしてほしいのは…

子どもが主体の『問題解決』



★端末等で調べて結論とするのは理科の学習ではありませんね。

★問題解決を通して導き出した結論を、もう一度自然の事物・現象に当てはめると、きっと見え方が変わりますよ。

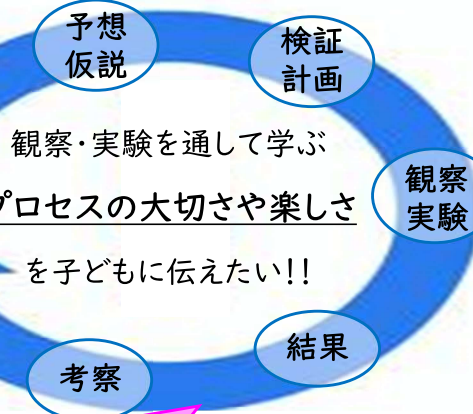


ここが大事!

子どもたちの
解決したい
問題設定



結論



【実証性】 その問題や予想は、観察・実験で確かめることはできますか?

【客観性】 みんなが納得した考えになっていますか?

【再現性】 できるだけたくさんの結果をもとに考えていますか?

『ちょっとした工夫』から始めてみませんか?

「知識及び技能」の習得

(工夫1) **当てはめる** … 学習したことを日常生活に当てはめて考えてみる。
(例) 3年 ゴムや風のはたらきはどこで使われているだろう?

(工夫2) **同じ自然現象を見る** … 学習するからこそ全く見え方が違うことに気づく。
(例) 6年 集気びんの下に空気の通り道を作ったのに、なぜ火は消えたのか?

「思考力、判断力、表現力等」の育成

(工夫3) **比べる** … 2つの対象があると、自然に比較が始まる。
(例) 3年 午前10時と午後2時のかげの向きや長さはなぜ違う?

(工夫4) **当たり前を共有する** … 子どもの当たり前を共有してから、当たり前じゃないものを提示すると「なぜ?」が生まれる。

「学びに向かう力、人間性等」の涵養

(工夫5) **ICT端末で写真を撮影する** … 日頃から身近な事物・現象の気になるものを撮影し、紹介し合う。この積み重ねが、「自然に親しむ姿」につながる。



受講者の声

これからも子どもたちが問題を見つけ解決していきたいと思えるような授業を心がけ、「理科って楽しい。」と思えるような工夫をしたいです。

「子どもの気づきや発言は我々をこえてくる」という言葉が印象に残りました。子どもの発言にどれだけ耳を傾けているか、どれだけ生かそうとしているかを見直すことができました。

《問い合わせ》
研修課 0770-56-1302